

(公表用)

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」(平成29年度採択)

事後評価結果

番号	研究名	研究代表者	評価
29-4	観光流動把握を目的とした交通流動推定システムの研究 開発	京都大学 教授 宇野 伸宏	B
<p><研究の概要> ※成果報告レポートより引用</p> <p>OD交通量推定モデルを核とし、各種の移動体データを活用しつつ、観光流動をはじめとする都市内のトリップベースの交通流動(トリップパターン)およびトリップチェーンを把握可能な交通流動推定システムを開発する。</p> <p><事後評価結果></p> <p>各種の移動体データを活用した、観光流動をはじめとするトリップベースの交通流動(トリップパターン)およびトリップチェーンの把握手法の構築について、一定の研究成果を挙げている。しかし、道路施策評価との関連性が間接的であり、有用性の面で疑問があることや、交通需要セグメントの明確な整理がなされていないなどの課題も残っている。このことから、研究目的は概ね達成され、研究成果があったと評価する。</p> <p><参考意見></p> <ol style="list-style-type: none">1. 交通流動パターンの推定モデルには、政策変数が含まれているように思われるため、道路施策の事後評価への適用は可能ではあるが、間接的であり、モデルと施策評価との関連性を明確にすると有用となるのではないかと。2. 設定したいくつかのテーマについて、きわめて精緻な研究を行っており、レベルの高い成果が得られている。道路政策への寄与という点に関して、ケーススタディの段階に留まっており、前半で得られた理論的成果を政策展開にどのようにつなげるかという点で、やや課題が残っている。3. ICTやビッグデータを活用した道路交通マネジメントは、道路管理者の重要な関心事項の一つであり、本研究の成果が活用され、道路政策の質の向上につながることを期待する。			

※本事後評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第40回新道路技術会議において審議したものである。